

JOCジュニアオリンピックカップ
第53回全日本中学生ホッケー選手権大会

【大会レギュレーション (TD通達)】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会2023年度版6人制ホッケー競技規則、同競技運営規程、レギュレーション、大会レギュレーション (TD 通達) 及び有効な通達事項に則り行われる。
2. 競技規則 (公社)日本ホッケー協会2023年度6人制ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、ノンストップ方式。7分間の4クォーター制とし、第1・第3クォーターの後に1分間の給水タイム、第2クォーターの後に5分間の休憩を設ける。
4. 時 計 試合時間は、テクニカルテーブルで管理する。
5. 競技方法 (1) 男女とも、3チーム総当たりの予選リーグを行い、上位各2チームが決勝トーナメントに進出する。なお、決勝トーナメントの組み合わせは、予選リーグ終了後に抽選会を実施し決定する。
(2) 決勝トーナメントにおいて規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試合終了後ただちに「7」に定めるシュートアウト戦 (以後「SO戦」とする) を行い、勝敗を決する。
6. 予選リーグの順位決定方法
(1) 勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点をそれぞれ与え、敗戦チームは0点とする。
(2) 勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。
 - ①リーグ戦における「得失点差」(「総得点数-総失点数」の差が多いチーム。)
 - ②リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。
 - ③上記において、なお同点の場合、「7」に定めるSO戦により順位を決定する。
なお、同位チームが3チームの場合のSO戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とする。(順位決定SO戦は、事象発生があった時点で通告する。通告後速やかに実施する。)
7. シュートアウト戦 (SO戦) ※詳細については2023年度競技規則及び2023年度競技運営規程参照
(1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、公式試合記録に記載された選手の中から3名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
(2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム3名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い (計6回)、得点の多いチームを勝者とする。
(3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、両チームが同数の攻防を行った中で最初に

リードしたチームを勝者とする方式（サドン・デス方式）により、再 SO 戦を行う。この場合、選手はプレイ不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、SO 戦を行う。ただし、攻撃を行う順番は変えても良い。

- (4) SO 戦において PS になった場合は、当該 SO 実施選手に限らず公式試合記録に記載された選手の PS 実施が可能である。

8. 試合の中断と追試合

天候などやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。

- (1) 追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行う。
(2) 追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。

9. チームベンチ

1 チームの編成は、監督 1 名、コーチ 1 名、手当てをする者 2 名、選手 12 名以内とする。

※選手は 1～12 の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※エントリーの際、同一校の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームで JHA のチームスタッフ登録を済ませていること。なお、監督については教員または、部活動指導員であること。

※クラブチームにおいては、監督またはコーチのどちらかは指導者資格を有すること。
(JSPO：日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 コーチ 3 以上)

※手当者も JHA チームスタッフ登録を済ませること。

※チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることができない。

(但し、学校長、チーム代表者、ベンチには入れない 3 年生等、TD の許可を受けた者はこの限りではない。このことは監督会議で確認する。)

10. フィールドへの立ち入り

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者及び監督・コーチどちらか 1 名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(ただし、その際にコーチングをすることは厳禁)

11. 選手の交代

- (1) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)
(2) 一時退場 (イエローカード：2 分以上) させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
(3) 選手の交代は、センターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

12. ルール確認 《(1)～(5)2019 年変更の再確認、(7)～(8)2021 新規変更、(6)2022 修正、(9)2022 追加》 《(1)～(8)2019～2022 年変更の再確認、(10)～(11)2023 年追加》

- (1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→P S

- (2) サークル内における守備側の F Hは、従来通り反則地点のサークルトップまでの地点(12m以内の地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能となった。
- (3) サークル 4 m以内での攻撃側 FH の場合、FH が即座に行われない場合はサークル内であっても守備者は 4 m 離れる。(常に 4 m 離れようとする指導を奨励)
- (4) PC 終了の条件から「サークル外に 2 回出る」の要件を削除。
- (5) PC において攻撃側のフライングは、罰則としてバッサーが 16m ラインに戻される。
- (6) 守備者が PC 用の防具を取り外す適切な機会がなかった場合、センターラインより自陣エリア内にいる間、ペナルティなしで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、センターラインより自陣エリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。(11 人制と同様の方法とする。)
- (7) GK の肘用防具については、ユニフォームで覆う必要はなくなった。
- (8) ブリーによる再開方法について、6 人制についてもスティックの平らな面を軽く 1 回打ち合わせる (11 人制と同様の) 方法となる。
- (9) 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、4m より離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。(ただし、危険と判断された場合はこの限りではない。)
- (10) ペナルティコーナー時の残りの守備側プレイヤーは、従来のセンターラインから相手側バックラインから 1 6 m以内に位置する。
- (11) SO 戦について、ゴールラインからフィールド中央の 1 6 m地点にひかれた 1 6 m スポット上から開始し、測定タイムは 6 秒とする。

13. 確認事項

- ① 今大会では、選手確認の方法を昨年度と同様にする。そのため、チームは事前にシステムの「会員証一括印刷」より顔写真入りの会員証を印刷し、選手各自がネックホルダーに吊り下げて提示する。(カラーまたは、白黒印刷は問わない。)
- ② 今大会では「スターティングリスト」の提出は行わない。試合開始 1 5 分前に次試合チームは、「次試合チームテント」で待機するとともに、監督がスターティングメンバー 6 名を担当競技役員に申告する。次試合チームテントでは、競技役員により選手確認、リングパス、服装・装具の点検を行う。
- ③ ユニフォームは必ず 2 着用し、試合会場 (ベンチ) に持参すること。
- ④ 選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。また、マウスガードは必ず着用すること。ただし、特別な理由があって装着できない場合は、「未装着届」(別途送付) を必ず提出すること。
- ⑤ キャプテンは、上腕及びストッキングのどちらかにキャプテンマークをつけること。
- ⑥ ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドは必ず使用すること。(チームの責任で遵守すること)
- ⑦ チームベンチは、[競技日程表] の左側のチームが青色のテントとする。
- ⑧ ペナルティコーナーで使用する保護具は試合開始前に事前に担当 TO に使用確認すること。
- ⑨ 応援者は、大会実行委員会および中学校部会の指示に従うこと。(保護者など応援者からの抗議等は一切応じない。監督は、保護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。)
- ⑩ 試合中、乱暴なプレイや審判員に対する誹謗等スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。なお、H28 年度より、全チーム監督は「行動規範確認書」に署名し提出することとする。

- ⑪ 選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。(2分以上の安静)
- ⑫ 棄権または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。
 - ・予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチームで順位を決定する。
 - ・決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- ⑬ 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書を TO または TD に提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書を大会事務局に郵送すること。
- ⑭ 全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度はない。
- ⑮ 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルで公式試合記録に署名すること。
- ⑯ その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TD の指示に従うこと。
- ⑰ 決勝トーナメントの組み合わせについては、予選リーグ終了後に抽選会を実施する。その際、決勝トーナメントの参加チームは監督・コーチまたはそれに代わる者(成人)が参加する。ただし、参加ができない場合には「委任状」を提出することにより、大会実行委員会による代理抽選を行うこともできる。
- ⑱ ペナルティコーナーが与えられたとき試合時間は停止されない。準備のための40秒間の計測はしないが、守備側プレイヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝当て等の着用はすみやかに行うこと。
- ⑲ 個人罰則について
 - グリーンカードは、警告とし、一時退場はしない。
 - イエローカードは、競技時間中に2分以上の退場処分が科せられる。退場時間の長さはカードを提示したアンパイアから TO に伝えられる。退場時間の管理は TO が行う。

14. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

本大会では、特別の感染拡大防止対策は行わないが、大会参加条件や罹患者やその疑いがある選手等の扱いについては、新型コロナウイルス対策ガイドラインに則り対応すること。なお、引き続き各チームは感染防止に努めること。